



俳句ゆめクラブ会報

2021年11月23日

第 138 号

十一月も余すところあと僅かとなり冬の気配がますます濃くなってきた、眼に入る野山の景色はいかにも寒々しい。

来月の句会は久しぶりの吟行で今年の締めくくり、終わり良ければ総て良し、としたいものである。

今日の句会も13名全員出席、兼題は「落葉」であった。

〔句会〕県活202号室 13時～14時30分

梅田先生の句

カフェテラス銀杏落葉の降りしきる
老医師の言葉やはらか冬さうび
妻へ買ふケーキ勤労感謝の日

梅田先生選

《特選》

冬立ちぬりハビリ中の友如何に
おままごと落葉売る店買ふお店
楚々として花枝の白さかな
父母は今は思ひ出冬紅葉
落葉踏む蹠七十年の記憶
雪かむる威風堂々たりし富士
思ひ出は皆と歩いた落葉みち
腕白も真顔となれり七五三

小林健一郎
岡田時雄
岩松忠子
小林健一郎
浅見法子
有村 弘
有村 弘
吉澤愛子

散る紅葉濡れて羅漢の笠となり
風の来て落葉の舞ひの始まりぬ

《入選》

月食の冬満月を見上げては
紅葉せる袋田の滝絵のごとし
年重ぬ度に早まる冬支度
一団の鴨棲む沼や夕暮れて

咲き始むる垣の山茶花華やぐ日
小菊咲き小さな庭の賑はへり
ひとときの艶を遺して落葉散る
風まかせ小さき旅せる落葉かな

大書せる新酒入荷に歩を止めて
落葉掃く鼻唄交りの僧もをり
また一人立ち止まる皇帝ダリヤかな
ほほ笑める小春日感謝のひなりけり
色の良き落葉を旅のみやげとす
氏神の社に落葉踏みしむる

膝に乗せ大き蕪の重さかな
夕日浴び銀杏黄葉の輝くや
紅葉せる甲斐の猿橋和の極み
一人旅秋風抜ける広き部屋
夕落葉少しさびしきこの齢
七色の変化見せたる柿落葉
黒潮に浮く軽石や鯛雲
ゆつくりと衰ふる三秋の暮

大井昭子
吉澤愛子
岩松忠子
岡田時雄
八千代幸男
大井昭子
吉澤愛子
大井昭子
長澤輝子
宮島昭夫
大井昭子
長澤輝子
宮島昭夫
岡田時雄
鈴木幸恵

雪吊の作業をいつまでも見て
青々と光る杉玉見上げたる
肩を越え頭を越え桜落葉かな
月明り地に敷きつめし白山茶花

互選

小菊咲き小さな庭の賑わひに (4票) 瀬戸川公子
ひとときの色めき残こし落葉敷 (3票) 大井昭子
落葉掃く鼻唄交りの僧一人 (5票) 八千代幸男
老医師の言葉やはらか冬さうび (6票) 梅田ひろし
一人旅秋風抜ける部屋広き (3票) 鈴木幸恵
妻へ買ふケーキ勤労感謝の日 (3票) 梅田ひろし
散る落葉濡れし羅漢の笠となり (9票) 大井昭子

〔決定事項・連絡事項〕

・次回吟行 12月14日(火)

大宮公園駅に10時集合

吟行場所 大宮公園・氷川神社・参道

句会会場 県立歴史と民俗の博物館 講座室

12時より開場、句会13時より

食事 博物館内に軽食場所あり、うどん・ラーメン・

焼きそば・カレー・コーヒー等

(12時より会場が使用可のためお弁当持参も可)

・有村弘氏が体調不良により退会される、長年の当会への貢献に感謝、体調好転とご多幸を祈ります。

(小林健一郎記)